

# 小川のハンター

話し手 島田 正治

聞き手 鎌田 拓海

田村 悠

(松山高校映像制作部 1年・2年)

## 介護の経験

前にね、やっぱインタビューされたことがあるんだけど。それは、介護。俺、寝たきりの重度障害者の介護を15年くらいしてた。

そういう仕事も自分の仕事以外に勤めてたの。

その人たちが書道をしたって言ったん。15人くらい生徒がいてね、じゃあ書道教室をやろうってなって、書道教室もやって。

でも、県の関係施設だから時々職員が来るわけですよ。そうすると、施設に入ってる方の作品を先生方とか職員が貼るわけですよ。すると、県の人 came 時に見て「あれ、これだれが教えてるんですか?」とか聞くんですよ。立派な先生だと嫌になっちゃうと思うんですよ。だって書けないから。1番ひどい子はどうやって書いたと思う? ヘッドだよ。ヘルメットにヘッドギアつけてワープロ打つでしょ? それと同じ感じでそこに筆を付けて書くんですよ。

最初のうちは半紙が真っ黒だよ。その子が、誰が見ても間違いなく字だと思う字を初めて書いたんだよ。それを両親が見たときはすごい喜んでたね。それは教えてよかったと思ったよね。うまい下手っていうのは別でね、今まで出来なかったことがね、ほんのわずかな教育の場として出来たっていうの、すごい感謝してるよね。

## 狩りを始めようと思ったのは

若いとき銃で遊びたいって思ったんだよ。私が27歳だから26歳のころから40年近くやって、当初はヤマドリとかが豊富だったんだよ。秩父に行ったりもしたし、秩父なんかは朝3時半ごろに出かけたりしてね。日の出とともに山に登ってそうやって遊んで。でも、若いころだけだよ、自分も積極的に動けたし。でもね、やっぱり銃なんかを扱うと厳しい。警察が個別調査、裏調査なんかじゃないけど回るのよ。その人だって証明する。それが苦しかった。とにかく、ハンティングをしたかった。あとね、犬作りもしたかった。それで試験を受けたら受かってしましましてね。それで始めたってのがキッカケ。

## 実際の狩りはね

ただ、遊べればいい。でも、ましてや銃。飛び道具。それを扱うにはマナーが必要。マナー=ルールだと思うんだけど、それが一番のネックだよ。仲間たちにもそれだけは守ってほしいと思う。実際に、複数人で山に入ると、どうしても2、3人の隊列になる。で、山に登って重たいから銃を担ぐ。そうすると後ろの人の目の前に銃口がむく。だからそれは肩にかけるとか、引き金に指を触れないとかで、危ないことは絶対にしない。まあ今はハンターの数も減って仲間もやめて、狩りに行くときは自分1人。全国で50万人いたハンターも今では20万人。

最近ね。イノシシ・鹿の被害が多い。この間、新聞にも環境省が夜も出るようにしようとか、警備会社に受託してみたいな記事もありましたし、先日の新聞の記事で長野県で梅の木が老木になって若い木に植え替えて、若い芽が鹿に食べられるなんてのがあって、全国的に鹿狩りが盛んなんですよ。1都5県の環境省とその地域の責任者の会議があって出席した。やっぱり1都5県の県境に鹿が集まるらしいんだよ。発情期に、そこにある新芽や樹皮を食べちゃう。そうすると植物は生きる生命力を失う。それを防ぐためにハンターの力を借りたいっていうんだけど、ハンターも数が少なくてみんな

老いてきてて、平均年齢が65くらい。みんな高齢者なんだよ。そんな人たちが県境の山なんか行けないじゃん。そういう面で四苦八苦してるね。

なんでイノシシが人の里に下りてくるのか。最終的には人間のせい。最近インタビューされると「私は悪いことは何もしてない」みたいに怒って帰っちゃう人いるよね。でも、実際悪いことはしてるわけなんだよ。乱開発とともに山が荒れちゃってる。山が荒れれば食べ物も少なくなる。食べ物がないから求めて降りてくる。求めて降りてきたら作物がある。だけど人はそれを食べられたくない。その繰り返しなんだよ。だから、俺も罠の免許なんかとって小川町にも11基の大きな箱穴が置いてある。でも県の許可証が2か月に1回発行される。その都度お金がかかる。メインのところに置いてるから出沒は抑えられてるけど、彼らだって生きる権利があるんだよ。

## 一番完璧だったのは

60kgくらいのイノシシをね、50mくらいの距離で撃ったの。1発撃ったら動かなくなったなあ。でももう1発。同じところに入ったね。完璧に心臓にいったね。ここに入れば必ず大丈夫だって。でね、うまくいったときなんてのは反動が肩に返ってくるんですよ。「うお! 当たった!」って感じのね。だから山で1番怖いのはやっぱり事故なんだよね。1発で仕留められなかったり、仲間の弾が当たったり。最近、ハンター目指してる人が2人いるんだけど、やっぱりマナー。そこだけは守ってほしいよね。でも、最近はハンターとしてみんなの畑を守りたいっていうより、可能な限り自分で畑を守りたいって感じなんだよね。

俺は、最近は趣味で釣りなんかすんだけど、ブラックバスみたいなのいるじゃん。山だと最近はアライグマ。ああいった外来種ってなぜか繁殖力が強いんだよ。飼って飼いきれなくなって自然に返しちゃう。そういう人がいるから生態系がおかしくなる。やっぱりもう少し命の責任っていうものを考えないとだめなんかもしれないね。

最近の辛いことは、やっぱり獲ってきたものを家族が食べてくれないことかな。

## Profile

島田正治 (しまだまさはる)

生年月日: 昭和21年11月16日

職業: ハンター。農業。

職業歴: 介護やハンターなど様々な仕事を経験し今に至る。

最初は遊びたい気持ちで始めたハンターだが、今では地区の代表者として立派に務めている。最近の趣味はマス釣り。